

授業科目名	地域における 多文化共生のまちづくり	担当教員	河本 美代子
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	1年次第3クォーター		
講義内容	<p>日本で暮らす外国人は、リーマンショックなどの経済的な打撃やコロナ感染症などによる影響はあるものの、増加傾向が続いている。特に、少子高齢化や過疎化に悩む地方都市では、外国人の力なしでは地域の存続が難しいといっても過言ではない。日本政府としても 2018 年の新たな在留資格「特定技能」の創設をみてわかるように、外国人が長期的に住み続けられるような体制づくりへと移行している。今後は、外国人を地域の住民と位置づけ、いかに彼らの持つ能力を活かせるような地域づくりを行うかが、地域活性化の鍵となる。そのため、異文化理解や多文化共生についての基礎知識を身につけること、また彼らの背景を知り、違いを受け入れるための取り組みや、必要とされる支援等について一緒に考えていく。明確な答えがないテーマについて、様々な視点で情報を収集し、自分なりの考えを持ち、主体性をもって行動できることを目指す。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本における外国人受け入れの現状や多様性・多文化共生のための基本的な知識を持っている。 ・様々な立場の外国人の持つ課題について理解し、課題解決のために必要な支援を共に考えることができる ・言語や文化の違う人と、相互の歩み寄りにより、コミュニケーションをとることができる。 ・外国人を多様な人材ととらえ、互いに助け合い、協力し合いながら地域の活性化に貢献することができる。 ・外国人の力を地域に活かしたまちづくりを考えていくことができる ・物事に対して多様な視点で情報を収集し、自分なりの意見を持ち、行動することができる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多様性・多文化共生について（異文化理解） 2. 日本における外国人の概要 3. 豊岡市を中心とした地域における外国人の現状と課題 4. 外国にルーツを持つ子どもの現状と課題 5. 就労者としての外国人の現状と課題 6. 外国人支援に関するワークショップ（ゲストスピーカー：地域日本語教室支援者） 7. やさしい日本語の基礎知識と話し方のコツを学ぼう 8. やさしい日本語でやさしいコミュニケーション 9. 日本語を外国語として捉えてみよう 10. 外国人に日本語を教えてみよう 11. 「日本人の知らない日本」ワークショップ（ゲストスピーカー：在住外国人） 12. 文化の違いについて考えてみよう 		

事前・事後 学習	講義の最初と最後に出される小課題を提出する 日頃から多文化共生に関するニュースに興味関心をもつ
テキスト	講義中に資料を配布する
参考文献	講義内容に関わる基礎的な文献等については講義中に示す
成績評価 の基準	小課題のレポート・・・30% 授業への積極性・ディスカッションでの発言など・・・30% 最終レポート・・・40%
履修上の注意 履修要件	特になし
備考欄	定員超過の場合、第1回第2回の講義に出席し、小課題を出しているものを優先する。それでも決まらなければ、抽選とする。